

令和 6 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立中央中学校

校 長 名 小島 弘之

1 研究主題、研究内容・方法等について

(1) 研究主題

社会情動的スキルを高め、主体的に学級や学校生活に参画する生徒の育成
～特別活動における SEL の取組を通して～

(2) 研究主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編では、育成すべき資質・能力の三つの柱として、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが示され、それらが偏りなく実現されるために生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

本校では、令和 2 年度から『主体的・対話的で深い学び』のある授業の創造～考える力と伝え合う力の育成を通して～」を研究主題に掲げ、「主体的・対話的で深い学び」のある授業における目指す生徒像を設定し、研究に取り組んだ。

昨年度は、「主体的な学び」のある授業づくりについて、【単元を見通して学ぶ】【ICTを活用して学ぶ】【対話を通して学ぶ】【学びを深める】【学びを確かめる】【学びを振り返る】の「探究ループ」をデザインし、確立することを目指して取組を進めた。

取組の結果、目指す生徒像に近づくことはできたが、自分の意見を積極的に発言している生徒の割合が低かったことや、発表する生徒が決まっていることなどが課題として明らかになった。それらの課題から、これまで以上に生徒が安心して対話をしようとする態度の育成に力を入れたと考えた。

対話への積極性が課題とされる背景として、今日生徒を取り巻く環境が、高度情報化社会の進展やグローバル化、AI 技術の発展など、複雑で予測困難な社会になっているからだと考えられる。また、新型コロナウイルス感染症対策の期間にマスクを着用しソーシャルディスタンスを確保することでコミュニケーションに必要な表情の読み取りや、対面での会話の場面がこれまでよりも著しく減少したことも要因として考えられる。これらの問題を解決するためには、他者との関わりを通して社会情動的スキル（社会的能力、非認知能力）を高めることが大切である。

そこで、今年度は社会情動的スキルを高める手立てとして、自己への捉えと他者との関りを基礎とした、社会性と情動の学習（SEL）を特別活動と関連付けて授業実践に取り組んでいく。さらに日常生活や行事と連動させることで学級をはじめ学校生活全体の中で社会情動的スキルが役立ったと生徒自身に実感させたい。

以上のことから、特別活動における SEL の取組を通して、社会情動的スキルを高め、主体的に学級や学校生活に参画する生徒の育成を目指し、研究主題に設定した。

(3) 研究仮説

特別活動で SEL を関連付けて授業を行うことで、社会情動的スキルの向上を図ることができ、主体的に学級や学校生活に参画することができるであろう。

(4) 研究内容

「SEL の効果的な活用」を研究する。

(5) 検証の方法及び指標

SEL の取組について、取組前後の生徒及び教員の授業に対する意識調査を比較し、各項目で肯定的評価の割合が 80%以上となることを目指す。

2 検証計画

- (1) 7 月、11 月に、生徒や教員に授業に対する意識調査を実施し、成果と課題、改善点を明らかにする。
- (2) 授業後に生徒に検証アンケートを行い、SEL の効果を検証する。

3 校内研修計画

- 4 月 校内研修で研究の方向性、研究主題、指導案作成について共通認識を図る。
- 4 月 特別活動で行う SEL について共通認識を図る。
- 7 月 各教科においてブロック研修を実施する。(2 教科)
- 7 月 生徒、教員に学習や授業に対する意識調査(1 回目)を実施する。
- 8 月 校内研修で、前期前半の振り返りと、今後の取組について確認する。
- 9 月～11 月 各教科においてブロック研修を実施する。(4 教科)
- 10 月 校内研修で、ICT の活用について交流する。
- 11 月 生徒、教員に学習や授業に対する意識調査(事後 2 回目)を実施する。
- 12 月 校内研修で、後期前半の振り返りと、今後の取組について協議する。
- 1 月 本年度の成果と課題について整理する。
- 3 月 令和 7 年度の研究の方向性を検討する。

4 研究公開の予定について

公開予定日	なし
公開範囲	なし
公開内容等	なし